

2024年2月6日

報道関係者各位

みんぱく創設50周年記念特別展 「日本の仮面——芸能と祭りの世界」

A Special Exhibition for the 50th Anniversary of the Museum's Founding:
Masks in the Performing Arts and Festivals of Japan

2024年3月28日(木)～6月11日(火)

国立民族学博物館(大阪府吹田市千里万博公園10-1)では、みんぱく創設50周年記念特別展「日本の仮面——芸能と祭りの世界」を2024年3月28日(木)から6月11日(火)まで開催します。



国内各地では、仮面をつけた役が登場する芸能や祭りがおこなわれてきました。本展示では、仮面の役の登場が印象的な各地の芸能や祭りの様相を中心に、あわせて仮面の歴史、仮面と人間の関係などを紹介し、それらをつうじて仮面と人びとの多様なかかわりについて考えます。

展示概要

国内各地には、仮面がさまざまなかたちで用いられ、重要な役割を果たしている芸能や祭りが伝わっています。こうした各地の芸能や祭りの仮面の多様性は、仮面が登場する芸能や祭りの歴史的な展開及び、それらの全国各地への伝播・定着と、その後の各地の地域社会における伝承を通じて形成されてきたとみることができます。本展示では、このような多様性に富む仮面のありようを、国立民族学博物館の所蔵資料をはじめ、各地の社寺や博物館などが所蔵する資料の展覧をととして紹介します。

展示の見どころ

1. おもな展示資料

国立民族学博物館、島根県立古代出雲歴史博物館、矢田寺(奈良県大和郡山市)、鳥取東照宮(鳥取県鳥取市)、御霊神社(神奈川県鎌倉市)、徳島県石井町教育委員会や須沢自治会(長野県飯田市)をはじめ、各地の芸能や祭りの保存会などが所蔵・保管する仮面及び、それらの仮面が登場する芸能や祭りの映像など。



御霊神社の面掛行列
(神奈川県鎌倉市)

2. 民俗芸能研究・芸能史研究において著名な資料の展示

上鴨川住吉神社神事舞(兵庫県加東市)、陀々堂の鬼走り(奈良県五條市)、古戸の田楽面(愛知県東栄町)など、従来、民俗芸能研究や芸能史研究において、しばしば言及されてきた資料の実物を展示します。



上鴨川住吉神社神事舞
(兵庫県加東市)

3. 各地の芸能や祭りに使用する面の一括展示

奄美地方の豊年祭の面(鹿児島県瀬戸内町)、出雲神楽の神楽面(島根県出雲市)、面劇の面(徳島県石井町)、矢田寺の練供養(奈良県大和郡山市)など、各地の芸能や祭りに使用する面を一括して展示します。

資料点数 約 700 点

展示構成

1. 仮面の歴史

国内の芸能や祭りにおける面の使用の多様性が歴史的に形成された経緯を、各時代に成立した芸能や祭りの面の展示をつうじて紹介します。

- ①発掘された仮面
- ②古代の芸能と仮面
- ③中世の芸能や祭りと仮面
- ④江戸時代の芸能や祭りと仮面

2. 祭りや芸能の中の仮面

仮面や仮面をつけた役柄が重要かつ印象的な役割を果たす国内各地の芸能や祭りの具体的な様相と多様性を、それらの芸能や祭りで用いられる面や映像をとおして紹介します。

- ①奄美の島々の豊年祭と仮面(鹿児島県瀬戸内町)
- ②硫黄島の八朔太鼓踊りと仮面(鹿児島県三島村)
- ③霜月祭と仮面(長野県飯田市)
- ④鳥取東照宮祭礼と仮面(鳥取県鳥取市)
- ⑤雨宮の御神事と仮面(長野県千曲市)
- ⑥御霊神社の面掛行列(神奈川県鎌倉市)
- ⑦出雲の神楽道具の貸元、林木屋の神楽面(島根県出雲市)
- ⑧面劇(徳島県石井町)
- ⑨矢田寺の練供養(奈良県大和郡山市)

3. 仮面の諸相

神霊・歴史上の人物・聖獣といった面が表すさまざまな類型や、面の祀り方やつけ方、面を用いた演出といった面と人の関係など、芸能や祭り全体における面の特徴について、国内各地の面の展示をとおして紹介します。

- ①仮面の表情
- ②仮面と人のあいだ
- ③演じる仮面
- ④面をつける

4. ヒーローと仮面

戦後の仮面ヒーローの系譜や現代の仮面ヒーローなどを、玩具や子供向けのテレビ番組、雑誌などをとおして紹介します。

- ① 仮面のヒーロー
- ② ハレの日の変身
- ③ 現代の仮面ヒーロー

関連イベント

※各イベントの申込み方法や詳細につきましては、みんぱくホームページをご確認ください。

研究公演

みんぱく創設50周年記念「千本ゑんま堂大念仏狂言民博公演」

会 場	みんぱくインテリジェントホール(講堂)
日 時	4月14日(日) 13:30～16:15 (13:00開場)
出 演	千本ゑんま堂大念仏狂言保存会
司 会	笹原亮二(国立民族学博物館 教授)
解 説	宮田勝行(千本ゑんま堂大念仏狂言保存会 会長)
定 員	400名
参加方法	事前申込制(先着順)／要展示観覧券(イベント参加費は不要)
内 容	千本ゑんま堂大念仏狂言は、平安時代末期の天台宗の融通念仏に由来し、その教えの人々への普及のために始められた念仏狂言で、演者が面をつけて、仏教などに関する内容を狂言形式で平易に演じ、壬生狂言、嵯峨大念仏狂言とともに京都三大大念仏狂言に数えられます。本公演は、同狂言の念仏芸能、仮面芸能としての姿を紹介します。なお、特別展「日本の仮面——芸能と祭りの世界」では同狂言の面を展示する予定です。



千本ゑんま堂大念仏狂言
(京都府京都市)

みんぱく映画会

みんぱく創設50周年記念「島と人とメンドン」

会 場	みんぱくインテリジェントホール(講堂)
日 時	5月3日(金・祝) 13:30～16:30 (13:00開場)
上映作品	「島と人とメンドン」
司 会	福岡正太(国立民族学博物館 教授)
解 説	藤岡幹嗣(立命館大学 教授)
座 談 会	笹原亮二(国立民族学博物館 教授)、藤岡幹嗣(立命館大学 教授)、室之園晃徳(三島村教育長)、佐藤央隆(三島村教育委員会)、徳田保(八朔太鼓踊り保存会会長)
定 員	350名
参加方法	事前申込制(先着順)／参加無料
概 要	九州の南、薩南諸島には古くから人々が暮らす火山の島があります。この島の名は、薩摩硫黄島。現在は約120名程度の島民が生活しています。薩摩硫黄島には400年以上踊り継がれてきた「八朔太鼓踊り」があり、島では重要なハレの場となっています。また、この期間にはユネスコによる無形文化遺産代表一覧表に記載された「メンドン」が登場します。ここでの人の「営み」と「八朔太鼓踊り」を描いたドキュメンタリー映画です。



八朔太鼓踊り
(鹿児島県三島村)

みんぱくゼミナール

「日本の仮面」

会 場	みんぱくインテリジェントホール(講堂)
日 時	4月20日(土) 13:30～15:00 (13:00開場)
講 師	笹原亮二(国立民族学博物館 教授)
定 員	400名
参加方法	事前申込制(先着順)／参加無料
内 容	全国各地で演じられ、伝承されてきた芸能や祭りでは、実にさまざまな仮面が用いられてきました。そうした日本の仮面の多様性に富む全体像を、古代から江戸時代に至る「仮面の歴史」、全国各地の祭りや芸能の印象的な仮面の出現を紹介する「祭りや芸能の中の仮面」、仮面の表情や用い方の多様性など特徴を示す「仮面の諸相」、仮面ヒーローの系譜や仮面レスラーの活躍などを扱う「仮面とヒーロー」といった、特別展の構成に即して紹介します。



「東南アジアの仮面」

会 場	みんぱくインテリジェントホール(講堂)
日 時	5月18日(土) 13:30～15:00 (13:00開場)
講 師	福岡正太(国立民族学博物館 教授)
定 員	400名
参加方法	事前申込制(先着順)／参加無料
内 容	東南アジアでは仮面をもちいた芸能がさかんです。写真と映像により、みんぱくが所蔵する東南アジアの仮面を概観し、ジャワ島を例に仮面芸能とその芸能にたずさわる人びとについて紹介します。



西ジャワの仮面舞踊
(1995年)

みんぱくウィークエンド・サロン——研究者と話そう

研究者が展示や研究についてお話しします。

特別展「日本の仮面」を巡って

会 場	本館展示場(ナビひろば)
日 時	4月21日(日) 14:30～15:00
講 師	笹原亮二(国立民族学博物館 教授)
定 員	なし(ご自由に参加いただけます)
参加方法	要展示観覧券(イベント参加費は不要)
内 容	特別展「日本の仮面——芸能と祭りの世界」について、「仮面の歴史」「祭りや芸能の中の仮面」「仮面の諸相」「ヒーローと仮面」といったそれぞれのコーナーの見所を紹介します。



稲佐神社のおくんちの獅子舞
(佐賀県白石町)

「八朔太鼓踊りとメンドン」

会 場	本館展示場(ナビひろば)
日 時	5月5日(日・祝) 14:30～15:00
講 師	福岡正太(国立民族学博物館 教授)
定 員	なし(ご自由に参加いただけます)
参加方法	要展示観覧券(イベント参加費は不要)
内 容	鹿児島県三島村の硫黄島では、旧暦8月1、2日に八朔太鼓踊りがおこなわれます。そこに登場するのが、特別展「日本の仮面——芸能と祭りの世界」に展示されているメンドンです。人口120名ほどの小さな島の八朔太鼓踊りとメンドンについて紹介します。

八朔太鼓踊りの周りをまわるメンドン
(2018年)

「中東イスラーム世界にも仮面芸能はあった、かもしれない…」

会 場	本館展示場(ナビひろば)
日 時	5月26日(日) 14:30～15:00
講 師	山中由里子(国立民族学博物館 教授)
定 員	なし(ご自由に参加いただけます)
参加方法	要展示観覧券(イベント参加費は不要)
内 容	中東イスラーム世界のマスクというと、女性が外出する際につける覆面のほうを思い浮かべる方が多く、仮面を使った儀礼や芸能はないと思われがちですが、動物の仮面をかぶった異形のものたちの踊りを描いた美術品はあります。それらにまつわるこれまでの研究を紹介します。

ミルザー・ムハンマド・ハサニー画
「踊るデルヴィーシュ」(1613年、イラン、Freer Gallery of Art蔵)

友の会講演会

「仮面とわたし」

日 時	5月4日(土・祝) 13:30～15:00 (13:00開場)
講 師	吉田憲司(国立民族学博物館 館長)
聴講方法	①本館 第5セミナー室(定員90名) ②オンライン(ライブ配信)※オンラインは会員限定
参加方法	オンライン聴講ならびに友の会会員以外の方のご参加には 事前申込(先着順)が必要です。 友の会会員:無料、一般(会場参加のみ):500円 友の会ホームページ内、友の会講演会受付フォームより https://www.senri-f.or.jp/548tomo/
お問い合わせ	国立民族学博物館友の会(千里文化財団) 06-6877-8893
内 容	大学へ入学した年から始めた仮面をめぐるフィールドワーク。今年2024年でちょうど50年越しの仮面との付き合いになります。日本国内から始まった仮面の探究は、アフリカへ、そして、アジア、アメリカ、ヨーロッパへと広がっていきました。その原点はどこにあったのか。そして、その到達点は？ わたしの仮面研究の軌跡をたどります。

ザンビア、チェワの人びとの葬儀
に登場するニャウの仮面
(1984年、撮影・吉田憲司)

開催概要

展覧会名	みんなく創設50周年記念特別展「日本の仮面——芸能と祭りの世界」
会場	国立民族学博物館 特別展示館
会期	2024年3月28日(木) ～ 6月11日(火)
開館時間	10:00～17:00 (入館は16:30まで)
休館日	水曜日
観覧料	一般 880円(600円)、大学生 450円(250円)、高校生以下無料 ※本館展示もご覧いただけます。※入館当日はチケット半券で再入場できます。 *()内は、20名以上の団体、大学等(短大・大学・大学院・専修学校の専門課程)の授業でご利用の方、3ヵ月以内の リピーター、満65歳以上の方の割引料金(要証明書等)。 *障がい者手帳をお持ちの方は、付添者1名とともに、無料で観覧できます。
主催	国立民族学博物館
協力	雨宮坐日吉神社、硫黄島八朔太鼓踊り保存会、石井町教育委員会、公益財団法人千里文化財団、国立歴史民俗博物館、御霊神社、島根県立古代出雲歴史博物館、鳥取県立博物館、矢田山金剛山寺

実行委員長

笹原亮二(国立民族学博物館 教授)

専門は民俗学、民俗芸能研究。日本の獅子舞の歴史と分布、日本の民俗芸能の近代から現代における伝承について研究している。著書に『三匹獅子舞の研究』(2003年、思文閣出版)、共編著に『造り物の文化史 歴史・民俗・多様性』(2014年、勉誠出版)、『ハレのかたち 造り物の歴史と民俗』(2014年、岩田書院)などがある。

実行委員

小池 淳一(国立歴史民俗博物館 教授)

福原 敏男(武蔵大学 教授)

山中由里子(国立民族学博物館 教授)

福岡 正太(国立民族学博物館 教授)

【お問い合わせ】 国立民族学博物館 総務課 広報・IR 係
Tel: 06-6878-8560(直通) Fax: 06-6875-0401 Mail: koho@minpaku.ac.jp
プレス向けウェブサイト www.minpaku.ac.jp/press

みんぱく創設 50 周年記念
特別展「日本の仮面——芸能と祭りの世界」
広報用画像リスト



【1】特別展チラシ



【2】特別展イメージ画像



【3】槻の屋神楽(島根県雲南市)



【4】悪石島のボゼ(鹿児島県十島村)



【5】平塩舞楽(山形県寒河江市)



【6】西金砂神社田楽舞(茨城県常陸太田市)



【7】八朔太鼓踊りのメンドン(鹿児島県三島村)



【8】千本ゑんま堂大念仏狂言(京都府京都市)



【9】稲佐神社のくんちの獅子舞(佐賀県白石町)



【10】御霊神社の面掛行列(神奈川県鎌倉市)



【11】上鴨川住吉神社神事舞(兵庫県加東市)

これらの広報画像はデータにて提供可能です。
ご入り用の画像があれば、総務課 広報・IR係まで次頁申込用紙にてお申し込みください。
資料名につきましては、展示場での表記と異なる場合がございます。

みんぱく創設 50 周年記念
特別展「日本の仮面 —— 芸能と祭りの世界」
広報用画像利用申込用紙

【ご希望の画像番号】

--

【貴社・貴機関について】

貴社・貴機関名	媒体名
ご担当者名	所属部署
所在地 〒	
電話番号	E-mail
ご掲載・放映の予定日	年 月 日

【プレゼント用招待券】（ご希望の場合はどちらかにチェックを入れてください）

☐ 3組6枚 ☐ 5組10枚

※チケット発送先が上記所在地と異なる場合は、下記にご記入ください。

発送先 〒

【申込先】

E-mail koho@minpaku.ac.jp または Fax 06-6875-0401

【広報に関するお願い】

■ 写真使用に関するお願い、注意事項

・クレジットには次のとおり記載してください。

【2】～【11】国立民族学博物館提供

・写真（画像）の過度なトリミングや文字乗せはご遠慮ください。

・作品写真の使用目的は、本展の紹介のみとさせていただきます。なお、本展覧会終了後の使用はできませんのでご了承ください。

■ 本館の基本情報等の確認のため、E-mail または Fax にて、掲載記事、番組内容の原稿等を下記連絡先までお送り願います。

■ お手数ですが、掲載紙・誌または録画媒体を2部お送りください。

【お問い合わせ・送付先】

国立民族学博物館 総務課広報・IR 係 〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園 10-1
Tel : 06-6878-8560（直通） Fax : 06-6875-0401 E-mail : koho@minpaku.ac.jp